

HU-ACE NEWS LETTER

Advanced Core for Energetics, Hiroshima University

Vol. 67
2022.7

研究拠点の動き

- | | |
|--------------|---|
| 2022年7月4日 | 第104回拠点セミナーを共催しました。 |
| 2022年7月4日-5日 | 第6回広島大学燃料とエネルギーに関する国際シンポジウム (ISFE2022) を開催しました。 |
| 2022年7月8日 | 第73回拠点拡大運営会議を開催しました。 |

ISFE2022をオンラインで開催しました

7月4日(月)、5日(火)に、広島大学エネルギー超高度利用研究拠点HU-ACE主催の第6回国際燃料・エネルギーシンポジウム6th International Symposium on Fuels and Energy (ISFE2022)をオンラインで開催しました。招待講演7件、一般講演(口頭発表)46件に対し、計9カ国63名のご参加をいただきました。終盤には拠点アドバイザーご参加の下、2050年脱炭素社会を見据えた広島シナリオのロードマップについて議論しました。バイオ燃料や水素エネルギーの導入による高効率利用技術の開発とともに、建物側での再エネ電力調整のための蓄熱の重要性など、エネルギー供給から需要まで広範囲にわたる議論を深めることができました。ここに、ご参加いただいた皆様のご協力に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、次年度こそは対面開催の実現を拠点メンバー一同祈念しております。

なお、現在広島大学ではカーボンニュートラルへの需要側の取り組みとして地中熱利用を推進しています。今回のISFE2022での議論を深めていくため、今後定期的にセミナー等を開催の予定でございますので、ご案内させていただきます。



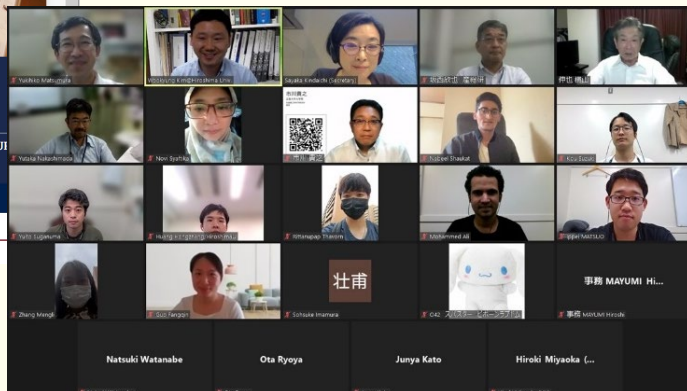
THE 6TH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON FUELS AND ENERGY (ISFE2022)

ON-LINE, JULY 4 - 5, 2022, HOSTED BY ACE, HIROSHIMA UNIVERSITY (HIGASHI HIROSHIMA CITY, HIROSHIMA PREFECTURE, JAPAN)

TOP PROGRAMME PRESENTATION VENUE CALL FOR ABSTRACT REGISTRATION ABOUT HU-ACE プライバシーポリシー

Welcome to ISFE2022

IMPORTANT DATE



[編集・発行]
広島大学 エネルギー超高度利用研究拠点

研究相談、共同研究など大歓迎です!

〒739-8511 広島県東広島市鏡山1-3-2
広島大学 未来共創科学研究本部 研究戦略推進部門
e-mail: hu-ace-info@ml.hiroshima-u.ac.jp, tel:082-424-4613
拠点ホームページ: <https://hu-ace.hiroshima-u.ac.jp/>

研究拠点関係者紹介

池上 真紀

リサーチ・アドミニストレーター



広島大学 未来共創科学研究本部 研究戦略推進部門

研究分野：サステナビリティ

研究キーワード：キャンパスマネジメント

研究概要

ご挨拶

今年4月の改組により、学術・社会連携室の元にあったURA部門は、未来共創科学研究本部研究戦略推進部門となりました。私は、その研究戦略推進部門にて、4月からURAとして勤務しています。エネルギー超高度利用研究拠点の担当URAとなりましたので、よろしくお願いいたします。その他に、窒素循環エネルギーキャリア研究拠点、国際連携研究、今年度は、COI-Nextなどの外部資金申請、工学系プログラムの支援も担当しています。

東北大学、北海道大学での勤務を経て、家族の転勤に伴い広島大学に異動して参りました。広島大学に所属する先生方とのネットワークづくりはまだこれからです。人脈づくりはURA業務の基礎と考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

サステナビリティと大学

東北大学の環境科学研究科で、木質バイオマスや地熱・地中熱などの再生可能エネルギーの利用促進の研究を行っていました。特に、里山の多面的利用の研究が中心で、民俗学や経済学、倫理学の先生からも、指導や共同研究の機会を頂きました。化石燃料への依存が進み、里山の資源は未利用となり、放置されることで衰退しています。福島県、宮城県などの中山間地域に出かけ、地元の資源と地元のコミュニティをつなぎ、里山の利用を再開するしくみを立ち上げることが、研究の大目的でした。

異分野連携で成り立っていた環境科学研究科の機構を活かし、融合研究を経験できたこと、さらに、実際の地域の人々と関わり、共にプロジェクトを進めていったことは、サステナビリティの問題の複雑性を体験する機会となり、非常に貴重な時間でした。

2012年に北海道大学に異動してからは、キャンパス・サステナビリティを推進する運営組織に所属し、環境負荷低減の取り組みを企画・実施してきました。2000年代に欧米の大学で誕生したキャンパス・サステナビリティの概念ですが、元々は、「持続可能な開発(SD)」を大学で実践しようとしたものです。キャンパス・サステナビリティをどのように解釈すれば日本の高等教育機関に根づくのか、また、どのような取り組みが日本に適しているのかを考え、提案することも、北海道大学での重要な業務の一つでした。現在、北海道大学と一般社団法人サステナブルキャンパス推進協議会が運用する「サステナブルキャンパス評価システム(Assessment System for Sustainable Campus-ASSC、アスク)」はその成果の一つです。

現在では、Times Higher Educationの大学インパクトランキングの普及もあり、SDGsの推進は大学の使命の一つと捉えられることも多くなりました。研究力強化は環境負荷の増大と表裏一体であり、それらの両立を可能にする優れた制度やツールを取り入れることは、いずれの大学にとっても、今後ますます重要になると考えています。

略歴

2007～2011年：東北大学大学院環境科学研究科 助教

2012～2020年：北海道大学サステナブルキャンパスマネジメント本部 コーディネーター・特任准教授

2021年：広島大学タウン&ガウンオフィス 研究員

2022年より現職